

久喜市の合併を検証する 公共料金など住民負担の増

2010年4月、1市3町の合併後、日本共産党議員団は次の3つの公約実現のため全力をあげました。

① 国保税では、高い保険税引き下げを求める請願が1万6333名分提出されましたが、2012年9月議会でも平均で0.9%増となりました。また、上下水道料金、介護保険料、後期高齢者保険料、住民税、ごみ収集袋の有料化など、まさに

② 循環バスでは、今年10月から鷺宮、菖蒲、久喜総合病院への延伸が図られました。全市にわたる循環バス制度の拡充とはなりませんでしたが、栗橋・鷺宮、菖蒲ではデマンドバスが走り始めます。

③ こども医療費の拡充では、粘り強い働きかけの中で、中学校卒業までの通院(入院はすでに

行政は介護家族の 声を聞いて!

声を聞いて!

安倍政権は、社会保障の改悪もすすめています。介護保険制度の改悪もそのひとつ。そのおもな内容は、①「要支援1・2」を介護サービス対象から外す。②年金収入が280万円の方は利用料を1割から2割に負担増などです。本当にひどい改悪ですが、もしもこうなったら介護家庭で何が起るでしょうか。

ひとり暮らしや老々介護世帯でデイサービスや訪問看護が受けられなくなり、その結果、筋力低下や閉じこもりが増加することが心配されます。「必要な介護サービスが受けられないことが介護保険制度ではなかったでしょう。久喜市は、介護で奮闘している家族に対し、持っている力をふりしぼってでも支援すべきです。

実施)も無料化となる、大きな成果をあげるこ
とが出来ました。

別表	これまで負担増となった値上率と総額
国民健康保険税	平均 0.9%増 1億6786万円
水道料金	平均 7.1%増 1億8406万円
介護保険税	平均 34.5%増 3億7016万円
後期高齢者医療保険料	1人 3334円増
下水道使用料	平均 6.3%増 5400万円
農業集落排水	平均 14.4%増 1577万円

介護制度の改悪をやめさせよう!
介護施設を地元を増設し
入所待機者をなくそう!



木村ともり議員



地域要望を実現

最近、地域要望を一般質問などで採り上げ、実現できた内容は次の通りです。

①久喜本町7丁目3.11大震災以前から舗装を要望していた場所(洋服の青山附近)

②久喜北2丁目、古久喜の道路補修や簡易舗装。

③各地域での公園や遊具の補修。久喜市栗原3丁目(川原児童公園)、久喜北2丁目(五領児童公園)、パークタウン内の砂場柵、柵、遊具の補修など。

④久喜北西地域の古久喜公園、香取公園の街灯。

住民要求実現のために 奮闘する共産党議員団

杉野おさむ議員



大雨水害対策を 最優先に

鷺宮地域は、局所的豪雨の被害が深刻です。青毛堀川の拡幅工事を急ぐこと。また、市内の排水路の整備も並行してすすめる必要があります。

**あおぞら駐輪場は
残して!**

東鷺宮駅西口に有料の施設ができましたが、無料のスペースは一定程度残すべきです。収入の低い若者に毎月2,500円は高すぎます。

渡辺まさよ議員



子育てしやすい久喜市へ

久喜市の人口は減少しています。しかも出生率は全国的に比較すると、とても低い現状です。久喜市に子育て世代に定住してもらうためには、少子化対策を進める必要があります。子ども医療費の更なる拡大、若い母親から要望の強い児童館の設置をするべきであり、それらを検討する少子化対策チームを、課の枠を超えて作るべきだと考えます。9月議会でも要求しました。

石田としはる議員



市は早急に全額支援を 南栗橋液状化被災支援

液状化による被災の方への支援事業。支援対象は、124世帯。被災額は家屋や地盤など500万円を超えます。市は1億円の支援予算を組んだが、平成24年度決算で5578万円を残しています。市民の皆さんからの募金約1920万円も含まれています。被災された皆さんに100%届けられるのが、市の責任ではないでしょうか。